

児童センターの小学生を対象にした花育 「簡単に飾れるクリスマスのいけばな」

作成者：公益財団法人日本いけばな芸術協会 理事 新藤華浩

- 対象者：児童センター利用児童 人数 20人
- 所要時間：1時間
- 指導者・アシスタント人数：講師1～2名 児童センター職員1名
- 実施場所：さいたま市立春野児童センター

■ 資材

- ・ 資材店の器
(100円ショップの器・紙コップ・ペットボトルでも可)
- ・ 切り花用ハサミ
- ・ 吸水性スポンジ
- ・ 持ち帰り用の袋 (レジ袋でも可)



■ 花材

- ・ 季節の花、年中行事や五節句の花などをテーマカラーを決めて選ぶ。
(和風にとらわれない。ハロウィンに黄色い花、クリスマスに赤・緑・白など)



【指導内容と目的】

- ・ 児童と一緒に体験する。子供が作る姿を保護者に見学してもらう。
- ・ 色も大事だが、枝のかたさ草花のやわらかさという、触った違いを楽しむ。
- ・ 枝も草花も生物だということを理解してもらう。
- ・ 何処に飾ろうか、誰のために飾ろうかと意識しながら制作する。
- ・ 植物と行事についてのお話しをする。長い間人間と植物の営みについて興味を抱かせる。

【対象者への配慮】

- ・ 自分自身でつくる喜びに気付かせる。
オンリーワンの作品作りは、手作りが大事だと認識させる。
できるだけ指導者、保護者は見守ることにとどめる。
- ・ 準備・制作・片付けで、一度のお稽古と知ってもらう。
- ・ ケガには注意する。
- ・ 家に持ち帰ってからの、手入れ方法を説明する（水入れなど）

1.事前の準備

■ 主催者との確認事項

- ・ 駐車場、ストックスペースの有無、
- ・ 児童センターは和室か洋室か（和室より洋室の方が掃除が楽）
- ・ ホワイトボード、バケツなど施設備品で借りられるもの
- ・ 当日の対象学年の確認
- ・ 机のレイアウト
- ・ タイムスケジュール

■ 使用する花材の準備

- ・ 500円で人数分に見本を1つ付けて用意。見本は事前に作っておく
- ・ 吸水性スポンジはある程度のサイズにカットして置く

■ 当日の準備

机をセットし、児童の右側にハサミ、中央に器と吸水済の吸水性スポンジ、左側に枝と草花を置く。（左利きの場合は逆）

ホワイトボードに花の名前、科属、原産地を記載（科属・原産地は分かる範囲で）

ゴミ入れの袋を部屋のすみに置く。

2.当日の流れ

■ 具体的な手順

①最初と最後に大きな声で挨拶。

ゆっくりと説明する。できるかぎり大人と同じように接する。指導者は一人が前、一人が後につく。



②今日のお約束を最初にする。

「ハサミはこちらが言うまで触らない」「お花は自分で水が飲めないなので、家で必ず水をあげて欲しい」「できたらお互いの作品を褒め合う」

③お花の名前、科属、原産地を説明。

1本1本取り上げて見せる。年中行事や有職故実など普段の学校で出あえない知識を積極的に提供する。



④実際の作業手順の説明

完成している見本を一度分解して再度作っていく。できればもう一人の指導者と交代する。児童に指導者がメインとサブという意識を持たせずどちらも先生だと認識してもらう。まず第一段階まで説明。

⑤第一段階まで説明したら第一段階の作業開始。各テーブル巡回。必ず児童と同じ目線に座る。全員終わったら第二段階説明というように④→⑤→④→⑤をくりかえす。だいたい三段階にわけていく。



⑥指導。色・形・創意工夫・など良くできたところを見つけてあげる。

⑦片づけ。最後に今日の言葉。「一期一会」などいけばなでよく使われている言葉を解説。挨拶。



■ 指導ポイント

長さや角度は説明するが、見本は見本である。正解不正解はないので、個人のこだわりは最大限優先する。

刃物を使うので細心の注意が必要なこと、ふざけながら使ってはいけないことなどを理解させる。指導者がケガした経験談などを話す。

その他、

いけばなは500年以上の歴史がある。それはその時代その時代の人在必死につないできたものだ。家の形や使う植物が変わっても花のある生活が、どれだけうるおいのあるものかができるだけ自らの言葉で語る。

■ 所要時間や配分

- ①挨拶（自己紹介）…………… 5分
- ②注意事項…………… 2分
- ③花の説明…………… 3分
- ④作業手順説明・作品作り… 5分×3段階
- ⑤作業手順説明・作品作り… 5分×3段階
- ⑥講評…………… 15分
- ⑦片付け…………… 5分

